

ウインマーベル *Win Marvel*

牡 栗毛 2019.5.8生
北海道新冠町 コスモヴェューファーム生産
馬主・榊ウイン 美浦・深山雅史厩舎
馬名意味・冠名+驚くべきこと

ロモラUSA系 F9-a		
アイルハヴァアナザーUSA I'll Have Another 栗毛 2009	Flower Alley 栗毛 2002	Distorted Humor Princess Olivia
	Arch's Gal Edith 黒鹿毛 2002	Arch Force Five Gal
コスモマーベラス 栗毛 2002	フジキセキ 青鹿毛 1992	サンデーサイレンスUSA
		ミルレーサーUSA
	ロモラUSA 鹿毛 1992	Nijinsky
		Single Blade

5代までのインブリード：Mr.Prospector S5×S5 Danzig S5×S5

INTERVIEW

岡田義広代表(ウインレーシングクラブ)

負けられないレースだと思っていました

前走の阪神CはG II、今回はG IIIということで、負けられないレースだと思っていました。心配していたゲートも上手く出てくれましたし、本来は苦手な雨と重馬場を克服してのハナ差勝ちでしたが、条件が違っていたらもっと大きな着差をつけたのではないかと考えています。次走の高松宮記念でも好結果が出ることを期待しています。



H. Yamanaka

3歳時にはリステッドの橘Sと重賞の葵Sを連勝し、古馬相手のキーンランドC、スプリンターズSでも2着に食い込んだ本馬。昨年は出遅れや道悪が響き、不本意な結果に終わったレースも多かったが、暮れの阪神Cで久しぶりの勝利を掴み、復調を印象付けた。他馬より重い58kgを背負ったこの日もさすがの貴塚を見せ付けて重賞を連勝。再び上昇気流に乗って1カ月後の本番・高松宮記念へ向かう。

父アイルハヴァアナザーUSA

北米7戦5勝(ケンタッキーダービー^{G1}、ブリークネスS^{G1}、サンタアニタダービー^{G1}、ロバート・B・ルイスS^{G2})、13年から日、米で供用
〔代表産駒〕ウインマーベル(本馬)、アナザートゥルース(ダイオライト記念^{Jr} II、アンタレスS^{Gm})、マイネルサーパス(アンドロメダS・L)、マイネルユキツバキ(仁川S・L)、サヴァ(六甲S・L、ユニコーンS^{Gm}2着)、オメガレインボー(アールテケS^{Gp}、エルムS^{Gm}2着)、ウインジェルベラ(後出)

母コスモマーベラス

北海道三石町 中村和夫氏生産 中央31戦7勝(ターコイズS^{Gp}2回、紫苑S^{Gp}、ユートピアS、五稜郭特別、萌黄賞、愛知杯^{Gm}2着)、地方2戦0勝。22年死亡
コスモメイジング(09 牝父ローズインメイUSA)中央3戦0勝、地方17戦0勝
コスモサリー(10 牝父ジャングルポケット)中央18戦1勝、地方21戦0勝
マイネソルプレーザ(11 牝父コンデユイトIRE)中央6戦0勝
ソフォニスバ(12 牝父コンデユイトIRE)中央5戦0勝、地方17戦2勝
マーベリック(13 牝父コンデユイトIRE)中央5戦0勝
マーベル(14 牝父コンデユイトIRE)中央4戦0勝、地方2戦0勝
ウインジェルベラ(15 牝父アイルハヴァアナザーUSA)中央8戦1勝(函館2歳S^{Gm}2着)、地方1戦0勝
ウインアイルピータ(16 牝父アイルハヴァアナザーUSA)中央18戦2勝(閃光特別)
ウインオーサム(17 驢父アイルハヴァアナザーUSA)中央6戦0勝、地方32戦8勝
ウインマーベル 本馬(19 牡父アイルハヴァアナザーUSA)中央21戦6勝(阪神C^{GII}、阪急杯^{Gm}、葵S^{Gm}、橘S・L、福島2歳S^{Gp}、スプリンターズS^{G1}2着、京王杯スプリングC^{Gm}2着、キーンランドC^{Gm}2着)
獲得総賞金322,405,000円

ウインアチーブ(20 牡父エピファネイア)中央9戦1勝 ㊟

※18、21(不受胎)

祖母ロモラUSA

不出走。95年輸入、14年用途変更
ロゼットブランシュ(96 牝父サンデーサイレンスUSA)中央0勝、ペプチド
ルビー(すばるS^{Gp}、すずらん賞^{Gp}、貴船S)の母
コスモマーベラス(02 前出)

曾祖母シングルブレイド Single Blade

アメリカ産 北米4勝(ガゼルH^{G1}、フロリダオークス・L、モンマスオークス^{G1}2着)、**ダーウィン Darwin**(ミンストレルS・愛^{G3})の祖母

ハナ差の勝利でG I制覇へ大きく前進

春の阪神開催の開幕を飾る阪急杯には、暮れの阪神Cの覇者ウインマーベルが参戦。出走馬中唯一のG IIウイナーに、園田から移籍後の5戦で3勝をマークし、重賞の舞台へ駒を進めてきたダノンティンパニー、1勝クラスから3連勝中のアサカラキング、サトノレーヴらが挑む構図が描かれた。実績馬と新星は鼻面を並べてゴール。写真判定に持ち越された勝負の重配はウインマーベルにあり、念願のG I制覇に向けて大きく前進した。

朝から断続的に降りしきる雨のなかゲートが開くと、逃げの戦法で3連勝中のアサカラキングが外枠を引いたこの日も意欲的に先手を主張。内のメイ

シヨウチタンを従えて主導権を握り、ぬかるんだ馬場重に緩みのないラップを刻んで風を切る。ウインマーベルの松山弘平騎手は最内枠から課題のスタートを決めて飛び出し、サトノレーヴと並んで好位のインを追走。ダノンティンパニーは折り合い重視の運びで中団馬群の外につけ、仕掛けのタイミングを窺った。

内々を回り、十分な主心で直線に向いた松山騎手は、押し切りを狙うアサカラキングの外へ持ち出してスパイト。呼吸して伸びたウインマーベルがジリジリと、しかし着実に前に詰める。中団の内を脚を溜めていたサンライズロナウドも2頭の外から追い込み、ゴール前は3頭の追い比べに。自分の形に持ち込んだアサカラキングは並ばれてからもしぶと抵抗、4連勝まであと一步と迫ったが、最後はウインマーベルの底力が一枚勝ち、「ハナナクビ差」の接戦に競り勝った。